

声

業界の



● 山梨県菓子工業組合

副理事長 内田 長久氏

業界の現況は？

単純に昔の売上と比較してみると減少しております。特に、葬式まんじゅうや結婚式の引き出物といった冠婚葬祭等の需要は大幅に減少しています。これは、ライフスタイルの変化等が要因として考えられるため、極端に持ち直す事は見込めそうにありません。

しかし、地域の菓子店は品揃えの大部分を店毎のオリジナル商品が占めているため、大店舗の進出や不景気にそう大きく左右されない安定した売上が見込めるといった一面があります。今後菓子店が生き残っていくためには、今まで以上にオリジナル商品を前面に出していくことが必要であると考えています。

ただし、オリジナル商品というだけで大企業・大店舗などに対抗するのは難しいでしょう。そのため明確に商品の差別化を打ち出していくことが求められています。

例として考えられるのは、地域の特産品を活用したお菓子作りなど、地域密着型で他の地域では手に入れることが出来ない商品を作り出すことなどが考えられます。

今後の展開は？

地域に密着した菓子作りという点では、「武田兵糧丸」がその代表的な例になると思います。

これは、当組合が昨年11月に商標登録したものであり、武田24将になぞらえた24種類の兵糧丸を当組合員が、それぞれ地域の特産品などを活用して試作開発しております。

しかし、24種類もの商品を同じケースに入れて販売することについては、材料や賞味期限などの問題点もあるため、審査会や試食会などで試行錯誤を続けております。

今後は、この「武田兵糧丸」が全国的な知名度を持つ商品となるよう、努力していこうと考えております。



「武田兵糧丸」の1つ